

会 議 録

会議の名称	令和2年度第1回東村山市保健福祉協議会				
開催日時	令和2年12月9日(水)午後7時00分～8時15分				
開催場所	東村山市役所 いきいきプラザ2階 学習室				
出席者及び欠席者	<p>●出席者：</p> <p>(委員) 黒田克也委員・河津英彦委員・橋本洋子委員・小西勇人委員・石塚卓也委員・日高真実委員代理・畠山香壽恵委員・大原喜美子委員・高橋照定委員・三田村慎一委員・新義友委員・今井和之委員・井原哲人委員・山路憲夫委員・谷英也委員</p> <p>(市事務局) 渡部市長・山口健康福祉部長・花田健康福祉部次長・瀬川子ども家庭部長・新井地域福祉推進課長・黒井生活福祉課長・江川介護保険課長・小倉障害支援課長・津田健康増進課長・嶋田子ども保健・給付課長・羽生地域福祉推進課主査</p> <p>●欠席者：</p> <p>加藤光二委員・大木幸子委員・大堀浩委員</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	4名
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付(机上配付)</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 職員紹介</p> <p>5 議事等</p> <p>(1) 個別計画推進部会等の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉計画推進部会</li> <li>・地域保健計画推進部会</li> <li>・地域包括ケア推進協議会</li> <li>・医療・介護連携推進委員会</li> <li>・子ども・子育て会議</li> </ul> <p>(2) 社会福祉センターの現状</p> <p>(3) 次期地域包括ケア推進計画の策定</p> <p>(4) 次期障害福祉計画の策定</p>				
問い合わせ先	<p>健康福祉部地域福祉推進課計画担当</p> <p>担当者名 羽生孝明</p> <p>電話番号 042-393-5111(内線3183)</p> <p>FAX番号 042-394-7399</p>				
会 議 経 過					
<p>議事等</p> <p>(1) 個別計画推進部会等の報告 (資料事前送付のため、概要説明については割愛)</p> <p>○会長 事前配付資料の内容等について、意見等がありますか。</p> <p>○A委員 各計画の報告について、取り組み状況等が記載されていますが、今後に向けてどのあたりを重点的に取り組みたいであるとか、どのあたりが弱み・課題であるとか、そのあたりの文言が明記されていても良いのかなと感じました。そのなかで、地域保健計画については取り組み状況がしっかり記載されていて良いと思います。ただ、令和元年度実績の資料がありますが、実績値</p>					

が平成28年度で、参考として平成30年度と令和元年度のデータが記載されています。現時点で少なくとも平成30年度の実績は出ているのではないかと考えますが、いかがですか。また、目標の「増やす」「減らす」の記載が少し抽象的に感じますが、もう少し具体的に「何%増やす」等の記載ができないものかと感じます。

もう一点は、「母子保健包括支援センター」の機能の充実に関して、これまでも子ども家庭支援センターには保健師が配置されていて、母子保健と子育て支援の連携は極めて良好であると聞いていますが、そのなかで「子育て世代包括」とすることでどのように変わってくるのか。これまでも連携が取れていたところがさらに良くなるということなのか、あるいは別の要素が加わるのかお聞きしたい。

#### ○地域福祉推進課長

各計画の報告、課題等の記載方法については、令和2年度以降の実績報告を作成する際にさきほどこのご意見等を踏まえて作成いたします。

また、地域保健計画の実績値について、一部令和元年度の数値も使用してはいますがなるべく最新のデータを使用することと、「増やす」「減らす」の表現等も含めて、次期計画策定時の参考にさせていただければと思います。

#### ○子ども保健・給付課長

「子育て世代包括支援センター」については、「子ども家庭支援センター」と同じくセンターという名称を使用しているためわかりづらいところもあるかと思いますが、従来の母子保健事業を中心に所掌しております。また、従来の相談支援機能に加え、令和元年度より新たに「すくすく訪問」という保健師と保育士が連携して子育て家庭を訪問し支援するという事業を開始したことについても、あわせて報告させていただきます。

#### ○A委員

わかりました。子育て世代包括支援センターに新たに保育士職のかたが配置されたということですね。また、子ども・子育て会議については来年1月には開催予定になってはいますが、現在まで会議がありませんので、現時点での状況報告をお願いします。

#### ○子ども家庭部長

子ども・子育て会議では、子ども・子育て支援事業計画に基づく各種事業の進捗状況等についてご意見をいただいておりますが、今年度は新型コロナ禍の状況等を踏まえ、どのように進めていくのかを庁内で慎重に検討してきたところです。また、委員のなかには子育て施設、保育施設関係者や保護者が含まれることなどから、会長を含め委員のみなさんのご意見については、この間、メール等を活用しながら進めてまいりました。本来であれば年内の開催が望ましいところでしたが、ご案内のとおり次回会議は1月の開催予定となっております。

#### ○会長

地域保健計画の「増やす」「減らす」といった表現については、たしか保健所の資料にも似たような表現があったかと思いますが、可能であれば次回以降検討をお願いします。

#### ○B委員

障害者福祉計画について、国の計画では児童発達支援センターの設置や、訪問支援事業の実施などの記載があったかと思いますが、そのあたりについて本計画にはどのように反映されていますか。

#### ○障害支援課長

児童発達支援センターの設置や保育所等訪問支援を利用できる体制の構築については、国の指針等では令和2年度末までに設置するように示されています。現在市内の社会福祉法人において児童発達支援センターが建設中となっているところです。当初は10月1日の事業開始を目指していましたが、新型コロナ禍による工事延期や資材等の調達遅れなどに伴い、現時点では令和3年1月中旬に建物完成の見込みです。そのため、事業については2月から3月ころの開始となるものと報告を受けているところです。また、訪問支援事業についても同一敷地内で実施する予定ですが、こちらも2月から3月ころの事業開始予定となります。以上のことから、この令和元年度の事業実績報告にはこれらの文言がありませんが、今後令和2年度事業実績報告の際には記載できるものと認識しております。

#### ○C委員

どちらの市町村においても集団健診や特定健診等について、受診者が減少していると聞いています。今回いただいた資料3-2の主な取り組みにおいても、受診を促すといった取り組みが記載

されておりますが、現在捉えている状況について、例えば新型コロナ禍で外出を控えている状況ですので例年よりも受診者が少ないのではないかと思います。その現状と、市民の健康のためには受診していただく必要がありますので、それについての考えがあればお聞きしたい。

○健康増進課長

具体的な数字はとりまとめておりませんが、やはり新型コロナ禍の状況にあるため、例年よりは受診者が少ないと報告を受けております。なお、集団健診のあり方については、一昨年度は2日間の実施であったところを今年度は4日間の実施を予定しており、しっかりと感染症対策をとったうえで行う予定です。

○A委員

障害者福祉計画の資料3-1のなかの障害者就労支援について、会議があった8月の時点ではデータが不十分であったと思いますが、ある障害者に関する情報誌によると2020年の3月から9月までの半年間で、障害者雇用のうち1200人以上が解雇されており、約40%解雇率が上昇しているとありました。そのなかでも知的障害者雇用は昨年比で80%も解雇が増えているとありました。新型コロナ禍の影響が障害者雇用にも影響があると考えられますので、今後の方針のなかでこのあたりに留意しながら就労支援を頑張っていただけたらと思います。

○障害者支援課長

障害者就労支援について、当市の最新の情報を補足させていただきます。新型コロナ発生以降11月末時点において、障害者就労支援室がフォローし就労に至ったかたで解雇されたかたはいらっしやらないということでした。しかし、新規採用の枠が非常に少なくなっていること、また集団での採用説明会の機会が少なくなっていることなどから、新規就労については例年に比べて減少している状況にあり、今後も就労を希望するかたに寄り添った支援に取り組んでまいりたいと考えます。

(2) 社会福祉センターの現状

○地域福祉推進課長

運営状況等については資料4のとおりのため割愛しますが、建物内部の設備等についてスライドをもとに補足説明いたします。

(施設内部の設備等について補足説明)

○会長

私も以前の社会福祉センターをよく知っているのですが、すごくきれいになったなという印象があります。なにかご意見等ありますか。

○A委員

きれいになったことは喜ばしいことで、さらに、各事業の強化について新型コロナ禍の難しい状況にあります。どのように考えていかれるのか。また、社会福祉センターを管理する指定管理者の印象として、就労関係は強い印象だが、障害の分野が少し弱い印象があります。イクシアに来られるかたについて、いわゆる大人の放課後デイサービスのようなイメージで、夜間にみんなで集れる場としてご利用いただければ良いと思っておりますが、現時点で想定通りの利用実績となっておりますか。また、利用者の声はどうでしょうか。

○地域福祉推進課長

当初の予定では、4月オープンとともに大規模イベントの実施等により利用者増を見込んでいました。しかし、新型コロナ禍を踏まえ6月から7月にかけて順次事業開始とし、大規模イベント等も控えることとしたため、想定していた利用者数は下回っております。一方で運営に関しては、例えばイクシアにおいて、新型コロナ禍の運営であることをしっかり踏まえ、ボランティアのかた、利用者、保護者の皆様が連絡会を定期的に行うなかで連携を密にし、利用者にとってどういう運営が最も良いのかしっかり検討しながら進めることができしております。

○D委員

社会福祉センターについて、指定管理者制度を導入する施設のなかで、積極的に福祉関係の事業を推進している例はあまりないように思います。1997年の社会福祉基礎構造改革以来、民でできることは民に任せる流れになっているのはみなさんご承知のとおりです。そのうえで、社会福祉センターが公(おおやけ)の立場で障害者に関する様々な事業を行っているということ、市民にわかりやすく伝えていく必要があると考えます。例えば福祉作業所について、なぜ公の予算をつぎ込んで、社会福祉センターのなかで実施しなければならないのか、あらためてわかりや

すく説明する必要があると思います。

#### ○地域福祉推進課長

社会福祉センターにある福祉作業所は「社会事業授産施設」として、障害や介護認定の有無に関わらず、おもに高齢者を中心に利用することを想定した施設として運営しております。また、同センターがもつ5つの事業を一体的に運営することについて、就労サポートセンターや中間的就労を担うミット、そして福祉作業所、これらの事業を指定管理者が運営する施設のなかで一体的に実施することによって、より相乗効果を発揮するものと期待するところです。

#### ○E委員

社会福祉センターについて、地域の民生委員から伺っているお話をご紹介します。建物がきれいになり、安心して利用できる。障害をもつかたが作るパンやお菓子などが販売してあり、近隣の地域のみなさんが利用しているなど様々な声がありました。私も見学にまいりましたが、新しく明るいスペースで利用者が仲良く話す声が聞こえてきました。福祉作業所では登録されたかたが、作業を行い報酬を得ているそうです。また、同センターの職員には利用者やご家族から「利用できてとてもうれしい」という声が届くそうです。職員やボランティアのかたも楽しく働いているようにみえました。市内にこのような障害者の居場所があるということが、私たち市民にとってとてもすばらしいことだと感じました。

#### ○会長

実際に足を運んでいただいて、市民の声をご紹介いただいたところですが、これを受けて、さらにより良い施設となるように運営をお願いします。

### (3) 次期地域包括ケア推進計画の策定

(資料5に基づき、次期地域包括ケア推進計画の策定状況等について説明)

#### ○会長

質問等があればお願いします。

#### ○B委員

引きこもりに関連して、これまでは高齢の親世代が担ってきた団塊ジュニア世代のケアについて、2040年には課題がさらに表面化してくると思いますが、それを見越して今から何か取り組んでいる、あるいはすでに課題があって本計画や別計画などに盛り込んでいるなどありましたらご説明願います。

#### ○健康福祉部長

いわゆる8050問題と言われております引きこもり等の課題については、現時点ですでに検討を進めておりますが具体的な施策には至っていないところです。東京都からも本件に関する具体的な施策等は示されてはおりませんが、本市としては当然ながら対応していかなければならない課題です。この引きこもりに関しては様々な要因があると認識しており、例えばほっとシティ東村山の窓口で就労相談を受けている段階で、実はご家族に引きこもりのかたがいて、受けた相談の延長線上で個別の機関につなぐというケースがあります。これは地域包括支援センターでも同様で、高齢者の相談に赴くその結果として、世帯のなかに引きこもりのかたがいて個別の機関につなぐというケースがあります。このように個別具体的な対応はとらせていただいておりますが、これを施策としてとりまとめてどのように運営していくのかについては、今後も関係機関と議論を深めながら検討してまいります。

#### ○D委員

この課題は複雑で、地域包括ケア推進計画のなかに直接盛り込むのはなかなか難しい。本計画において、差し当たっては目の前の高齢者をどのように支えていくのかに注力する必要があります。引きこもりの課題は極めて深刻な課題であると認識はしていますが、現実としてこういった施策が必要なのかについてはみんなで知恵を出し合っていくしかないのかなと考えます。

#### ○A委員

品川区では、青少年問題としていわゆる8050問題に取り組んでおり、区の予算で引きこもりのかたのためのフリースペースをつくって、居場所づくりに取り組んでいます。実際には、小学校3年生くらいから50歳くらいまでのかたが利用しているそうです。このフリースペースについて新型コロナ禍で区は一時休止することを検討したそうですが、実際にはその必要性に鑑み休止することなく居場所を提供していました。品川区では青少年問題協議会のなかで、子ども・子育て支援事業計画とは別に若者に関する対策を立て実行しています。また、品川区の社協では

引きこもりのかたの相談を受ける場をつくっていて、いわゆる「藤里方式」により秋田県白神山地を訪れるプログラムなどがあって、例えばシルバー人材センターの高齢者のかたと若者が一緒に行動することで若者が安心して行動できるなど、短期間ではあるが体験できるものがあります。このように23区のなかでは少しずつ動き出しているようです。

さきほど引きこもりの課題をどの計画でみるのかの議論が少しありましたが、今青少年については40～45歳くらいまで年齢を引き上げるべきだという意見がありますので、私はこちらでみるほうが良いのではないかと感じました。

○会長

中学生の例で、この間の新型コロナ禍の影響で父親がテレワークになり、なかなか家で引きこもれない。それで無理やり学校に行くのだけれど、居場所がないので保健室に行ってしまう。そういうかたがいるようです。これは新型コロナが関係した引きこもりに関する課題例ですが、みなさんがおっしゃるように問題は複雑で、みんなで良い知恵を出し合う必要があると感じています。

#### (4) 次期障害福祉計画の策定

(資料6に基づき、次期障害福祉計画の策定状況等について説明)

その他

○会長

予定していた議事等は以上ですが、事務局なにかありますか。

○地域福祉推進課長

事務局より、連絡事項をお伝えします。

(健康増進課長より、東村山市自殺対策推進計画の概要、PCR検査センターについて報告)

以上で、本日の保健福祉協議会を終了させていただきます。

閉会